

小・中学校 道徳

道徳の時間の目標（中学校）

道徳教育の目標に基づき、各教科、総合的な学習の時間に及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成するものとする。

言語活動の充実

自分の考えを基に、書いたり討論したりするなどの表現する機会を充実し、自分とは異なる考えに接する中で、自分の考えを深め、自らの成長を実感できるようにする学習活動

思考 発信 交流 再考 発信

考えをもつ

表現する

交流し、再考する

言語情報としての資料から、登場人物の気持ちや行為の動機などを考える。

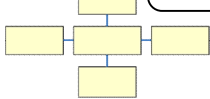
表現する活動を通して、自分自身のものの見方や考え方・感じ方などを整理し、言語化する。

他者の考えに触れることで、自分の考えとの同じ面や違う面などを認識する。  
自己や他者と対話しながら再び言語化することで振り返ったり、自らの価値観を見つめ直したりする。

中学校指導例【主題名】友情とは～「友達とは・・・」内容項目 2-(3)友情 第1学年

友達とは何だろうか。キーワード「友達」から放射状（ウェビング的）に自分の考えを書く。

マインドマップ  
（拡散的思考）



資料を読み、最後に友達に伝えなかったことを考えて手紙にして書く。

・書く活動  
＜ロールレタリング＞

手紙を回収し、シャッフルして配布する。

届いた手紙を読んで、返事を書く。

手紙と返事を発表し合い、改めて友達とは何か考える。

<目指す姿>

「友達」についていくつかの理由や根拠を基に自分なりの考えや意見をもちながら書いている姿。

手紙の内容の構成や伝え方を意識し、自分なりの考えや意見を手紙の中に表現している姿。

手紙を通して自分の考えを伝え合い、自分とは異なる考えに接する中で、自分の考えを深めようとする姿。